

2020年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495200170	事業の開始年月日	平成24年3月1日	
		指定年月日	平成24年3月1日	
法人名	株式会社日本アメニティライフ協会			
事業所名	花織なかはら新館			
所在地	(211-0051) 川崎市中原区宮内2-17-35			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	令和2年10月10日	評価結果 市町村受理日	令和3年9月6日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

東急バス「上宮内」停留所から徒歩5分程度の閑静な住宅街にあります。小規模多機能型居宅介護、花織なかはら新館を併設しております。利用者様の日々の平穏を助け、安心・安全・安楽な生活をしていけるようお世話をさせて頂いております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年11月10日	評価機関 評価決定日	令和3年1月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

JR南武線「武蔵新城」駅または「武蔵中原」駅から徒歩15分程度の多摩川にほど近く、戸建て住宅が混在する閑静な住宅街に事業所があります。バスの場合は「溝の口」駅「高津」駅「武蔵小杉」駅から向かう事も可能です。鉄骨造3階建の建物の2階と3階が事業所で、1階は併設の小規模多機能型居宅介護事業所となっています。同一運営法人の事業所も隣接し、協力関係が確立しています。

<優れている点>
目的を持った職員が多いため、職員が連携しチームワーク良く検討支援しています。病院退院後に入居した利用者の、介護度を下げることの取り組みに力を入れています。特に、入居前におむつを使用していた利用者をトイレでの排泄ができるように支援した事例も数多くあります。

<工夫点>
これまで地域との交流が盛んに行われています。今年はコロナウイルスの関係で中止となっていますが、自治会の祭りでは神輿の休憩所となり、利用者や職員が飲み物や食べ物を提供するなど地域の一員として交流しています。トイレは共有空間に1ヶ所あり、共有空間の裏手に2ヶ所あるため、他の利用者の目を気にせずトイレに行くことも出来ます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花織なかはら新館
ユニット名	ユニット1

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	利用者様ひとりひとりが住み慣れた地域で尊厳をもって生活できるよう理念を定め、職員は研修と掲示により理念を共有できております。	理念は各フロアーの見やすい場所に張り出して、会議の中でも振り返り話し合っています。地域とともに開かれた場所を目指し、利用者を第一と考えることで、喜び、楽しみ、そして安らぎのある生活の支援をしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍の影響で現在はできておりません。	昨年度までは積極的に行われていた町内会の催し物や、学校とのつながりで来訪していた吹奏楽部、ハーモニカのボランティアとの交流のすべてが今年度は行えませんでした。地域活動を再開できるようになった際は、催し物も増やす計画案もあります。	コロナウイルスが終息した時には再開を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍の影響で現在はできておりません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の影響で運営推進会議は中止しております。	同一敷地内に4つの事業所があるため、合同による運営推進会議として、3月までは年間6回開催しています。現在は職員のみで話すことで会議も小さい範囲で行っています。家族や会議に参加していた委員には、事業所の状況を口頭で報告しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村との連携は密に行っています。また、生活保護利用者が3名入所しているため、市保護課には特に密な情報・連絡の交換を行っています。	地域のグループホームとの連携を継続しています。生活保護課や高齢障害課とも密に意見交換しています。区からは、コロナウイルスの影響で在庫が尽きる寸前にマスクや消毒用のアルコール、プラスチックグローブの提供を受けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束ゼロを心掛け、職員にも研修を行っております。	法人としての研修会があり、マニュアルも作成しています。身体拘束について職員勉強会を開催しています。研修に出席できない場合も別日で勉強できるような体制を構築しています。職員全員が身体拘束をしない取り組みを共有することを大切にしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	どのような事例が虐待に当たるか研修を行うとともに、職員のストレスコントロールを指導し、虐待が起こらない職場作りを心掛けております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	外部機関とも調整を行い、利用者が最大の受益を得られるように心がけています。生活保護利用者については保護による権利も擁護します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	終末期ケアや医療行為に関する不安を具体的に説明しています。また、ご家族の希望を聞きつつ、将来的な見通しについて一緒にご相談させて頂いております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	随時意見をお聞きしております。また、どのようなご意見を頂き、どのように反映したかを記録に残しております。	今年はコロナ禍で面会が出来なくなった時期があり、家族から訪問の再開を希望する意見が多く聞かれ、情勢を判断しながら再開や中断をしていましたが、9月からは予約制で面会を開始し、手紙やはがき、電話なども柔軟に対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員との日々の会話、面談の中で業務内容やサービスの提供について意見を聞き、提案を取り入れています。	月1回全体会議やフロアー会議を行い、年2回職員の個人面談を行っています。職員の意見を提案できる「意見交換ノート」も継続しています。特定処遇改善や職員慰労金についても意見交換の会議の中で話し合いをしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	日頃の面談でそれぞれの目標を決め、モチベーションをもった仕事をして頂いております。また、就業条件についてもご本人の意向に沿えるように配慮しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	入植時の研修や定期的な研修を行い、職員の技量向上に努めています。また、資格取得に対する奨学金制度を積極的に取得させ、キャリアアップに繋げていきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	系列の管理者と連絡を密に取り合い情報交換を行っております。同業者との交流機会については、コロナ禍のため機会を設けることが難しい状態です。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始時にご家族やご本人に要望・不安などをお聞きし、信頼関係が作り出せるように傾聴し、ご入居後も随時ケアに反映させていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始時にご家族やご本人に要望・不安などをお聞きし、信頼関係が作り出せるように傾聴し、ご入居後も随時ケアに反映させていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人とご家族の現在おかれている状況を考慮し、サービスに繋げています。また、必要に応じて他事業所への紹介も含め、多角的に対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人のADLに沿った参加を推奨し、できる範囲での家事をして頂くことで生活の場をともに維持していております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍で長期間にわたり面会謝絶となり、現在も玄関のみでの面会になっていることから、家族参加の機会が低下しています。段階的な面会制限の解除とともに、ご家族の参加機会を増やせるよう呼び掛けてまいります。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族に現在の様子をお伝えしたり、お写真をお預かりして、つながりを維持できるよう心掛けております。	コロナ禍で外との交流を狭められている中、小さいながらも利用者の楽しみを見つけるため、利用者の食べ慣れたものや使い慣れた化粧品などを職員が代行して買物をする支援をしています。馴染みの床屋の来所など、一人ひとりの関係継続の支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を確認し、仲の良い利用者の席は近づけるなど、過ごしやすい関係性を整えています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了した方は、ご家族を通じて他事業所への情報提供などを行っております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中でご本人の意向を聞き、ケアに反映させています。意志表示の難しい利用者のご家族の要望を汲んでケアの方向性を定めています。	コロナ禍の中、職員は利用者をより理解しようと心がけ、利用者の趣味について掘り下げて調べてみたり、持病の治療について検討し合ったりしています。職員は利用者と話しながら一人ひとりの思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や本人等から聞き取りを行い、これまでしてきた生活様式がなるべく継続できるよう支援しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケアプラン更新時のモニタリングの他、日々の職員の議論を通じてADL, QOLの評価を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご家族・医療スタッフとも話し合い、状態の変化に応じたケアを検討しています。特に食形態の変更やおむつの使用等については、検討期間を長く作り対応しています。	医師と看護師も職員と共に介護計画に参加しています。家族とは電話や手紙などで説明しています。リハビリパンツのケアから布パンツに移行して欲しいという家族の希望があった際は、その要望と現状に即した介護計画を作成し実践しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に利用者の言葉や様子を記録し、どのような思いを抱いているのかりサーチし、情報共有を行ってケアに反映させていきます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族の要望を可能な限り汲んだケアを心掛けています。一方でご家族のニーズが入退院の同行など施設外での活動を要請されるケースも多く、すべてに対応するのは難しい状況です。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	現在はコロナ禍によりできていません。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に二回の定期往診を受けています。また、施設看護師による健康チェックが週二回行われ、必要な際はかかりつけ医に繋いでいます。	全員が提携医療機関の内科医をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受診しています。皮膚科や眼科などの専門医の通院は原則家族が付き添っています。受診情報は、職員が家族から聞き取り、職員、かかりつけ医、看護師間で情報を共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は日々の申し送りやケアの中で看護師に相談したり、個人記録に記入し情報の共有を行いつつ受診や看護に繋がっていきます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、看護職員は退院時に医師とご家族のムンテラに同席させて頂いて、正確な情報を把握するように努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化やターミナルの確認を行っています。また、状態の変化に合わせてその都度話し合いを行っています。	入居時に「利用者の急変時や重度化した場合における対応に係る指針」を説明し同意を得ています。看取りは家族の同意を得て実施しています。「看取り介護計画書」を作成して方針を共有し、家族、かかりつけ医、看護師と連携して支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	突発的な急変や事故に備え、対応マニュアルの作成と周知を行っています。また、急な受診が必要になった際に隣接の小規模の施設車に協力を要請するなど、施設間での協力体制も整えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害対策のため物資備蓄を行うとともに、市の危機管理室へ洪水避難計画書を提出して指導を受けるなど、災害への備えを行っています。	夜間想定訓練も含み、避難訓練を年2回実施しています。避難訓練には地域住民も参加しています。水災対策として「洪水時の避難確保計画」を策定しています。非常用に3日以上飲料水、アルファ米、パンを備蓄し、リストを作成し管理しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人の生活歴や性格を考慮し、誇りやプライバシーを損ねないよう心掛け、個々人に合わせた接し方をしています。	個人情報やプライバシー保護は、入社時に職員に周知しています。呼び名は利用者の苗字に「さん」をつけて呼ぶようにしています。個人記録には、他の利用者名を記載しないようにしています。フロアーで記録する際は、周辺に十分配慮して行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	着用する服や飲み物の種類など、ご本人が選べるように声掛けを行いながら接しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人の意向を優先し、どのように過ごしたいのか、どの程度干渉されたいのかを見極めて支援させて頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	半数以上の利用者をご自分で衣類を選んでいます。定期的理美容の際も、本人の希望に沿うよう行っています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備や片づけを一緒にして頂いています。また、季節に即した食事を提供し、楽しんで頂いております。	専門業者の献立と食材を使用し、職員が調理しています。きざみやミキサーなどの形態食にも対応しています。利用者は皿やお盆を拭くことを手伝っています。月1回食事レクリエーションを行い、たこ焼きパーティーや、鰻井の出前なども楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ご本人の状態に合わせたご飯の量を盛りつけたり、適切な飲水量が確保できるよう声掛け支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアの補助が必要な方はケアを行う他、歯科往診にて指導を受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ご本人に合わせたトイレ誘導、排泄介助を行い、支援しております。	排泄チェック表で排泄パターンなどを把握し、利用者の様子や仕草を基に夜間も含めトイレ誘導をしています。誘導の際は、小声で話しかけるなど羞恥心に配慮しています。病院からの退院後、寝たきりから手引きのトイレ誘導が可能になった改善事例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	最終排泄の記録をとり、排便コントロールを行い、朝は牛乳を飲んでもらうなど支援を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一番風呂がいい方、決まった曜日がいい方などご本人の望まれるタイミングに合わせております。	入浴は週2回、午前中に1日3名程度が入浴しています。利用者の意思を尊重し、入浴時間や曜日を変更するなど柔軟に対応しています。会話を楽しんでもらったり、好みのシャンプーを使ってもらったり、利用者楽しく入浴してもらう工夫をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人が自由に居室やフロアなどで過ごしています。移動介助が必要な方はお声掛けにて同意を得て休息をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師が記載した往診記録の確認、または個人記録に添付してある薬剤情報を確認しながら服薬の支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者の個別のADL、ニーズを踏まえ、読書やテレビが好きな方、家事を生き生きと参加して下さる方、自室で過ごしたい方など個別に対応し、利用者自身が望む生活を支援しております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在はコロナの影響で外出は控えて頂いていますが、天気の良い日などは駐車場まで出て外気に当たるなどして頂いております。	スーパーマーケットやコンビニエンスストアへ買い物に出かけていましたが、現在は天気の良い日に、車椅子の利用者も一緒に散歩や外気浴をしています。利用者の外出に偏りがないように配慮しています。去年は、等々力緑地の花見や生田緑地のバラ苑にドライブで出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	安全のため現金については可能な限り施設内では使用せず、物品購入についても立て替えにて口座請求を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙や電話にてご自由に連絡をとって頂いております。また、手紙を書くためのハガキを購入し、利用者にお渡ししています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔をベースに安心した生活の提供を心掛けています。季節に応じてフロアの飾りつけを変更し、その季節に合った雰囲気を醸成しています。	共有空間は、清潔でゆったりしており、落ち着ける空間になっています。壁には、食事レクリエーションの写真や猫のカレンダーを加工した作品などを飾っています。利用者が居室にいる時間に換気するなど、新型コロナウイルス対策を実施しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入所者が自由にフロアや居室を歩き来しています。一人を好まれる利用者には、おやつを自室で提供するなど、その人に合わせた対応を行っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家で使っていた家具を居室においてなるべく自宅に近い感覚で過ごして頂けるよう配慮をしています。ご家族の写真や壁に貼るなど、心情にも配慮しています。	テレビ、タンス、時計などの馴染みの品や、家族の写真、寄せ書き、仏壇、ぬいぐるみなどの思い出の品を持ち込み、個性豊かで、清潔な居室になっています。安全対策として、家族に確認を取ったうえで離床センサーを設置している利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご本人の希望やそれぞれの能力に応じて掃除や食事の後片付けをして頂いています。個別性を重視し、その方の力量に合わせた支援を行っています。		

事業所名	花織なかはら新館
ユニット名	ユニット2

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	利用者様ひとりひとりが住み慣れた地域で尊厳をもって生活できるよう理念を定め、職員は研修と掲示により理念を共有できております。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍の影響で現在はできておりません。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍の影響で現在はできておりません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の影響で運営推進会議は中止しております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村との連携は密に行っています。また、生活保護利用者が3名入所しているため、市保護課には特に密な情報・連絡の交換を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束ゼロを心掛け、職員にも研修を行っております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	どのような事例が虐待に当たるか研修を行うとともに、職員のストレスコントロールを指導し、虐待が起こらない職場作りを心掛けております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	外部機関とも調整を行い、利用者が最大の受益を得られるように心がけています。生活保護利用者については保護による権利も擁護します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	終末期ケアや医療行為に関する不安を具体的に説明しています。また、ご家族の希望を聞きつつ、将来的な見通しについて一緒にご相談させて頂いております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	随時意見をお聞きしております。また、どのようなご意見を頂き、どのように反映したかを記録に残しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員との日々の会話、面談の中で業務内容やサービスの提供について意見を聞き、提案を取り入れています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	日頃の面談でそれぞれの目標を決め、モチベーションをもった仕事をして頂いております。また、就業条件についてもご本人の意向に沿えるように配慮しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	入植時の研修や定期的な研修を行い、職員の技量向上に努めています。また、資格取得に対する奨学金制度を積極的に取得させ、キャリアアップに繋げていきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	系列の管理者と連絡を密に取り合い情報交換を行っております。同業者との交流機会については、コロナ禍のため機会を設けることが難しい状態です。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始時にご家族やご本人に要望・不安などをお聞きし、信頼関係が作り出せるように傾聴し、ご入居後も随時ケアに反映させていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始時にご家族やご本人に要望・不安などをお聞きし、信頼関係が作り出せるように傾聴し、ご入居後も随時ケアに反映させていただきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人とご家族の現在おかれている状況を考慮し、サービスに繋げています。また、必要に応じて他事業所への紹介も含め、多角的に対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人のADLに沿った参加を推奨し、できる範囲での家事をして頂くことで生活の場をともに維持してまいります。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍で長期間にわたり面会謝絶となり、現在も玄関のみでの面会になっていることから、家族参加の機会が低下しています。段階的な面会制限の解除とともに、ご家族の参加機会を増やせるよう呼び掛けてまいります。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	ご家族に現在の様子をお伝えしたり、お写真をお預かりして、つながりを維持できるよう心掛けております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を確認し、仲の良い利用者の席は近づけるなど、過ごしやすい関係性を整えています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了した方は、ご家族を通じて他事業所への情報提供などを行っております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中でご本人の意向を聞き、ケアに反映させています。意志表示の難しい利用者のご家族の要望を汲んでケアの方向性を定めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や本人等から聞き取りを行い、これまでしてきた生活様式がなるべく継続できるよう支援しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケアプラン更新時のモニタリングの他、日々の職員の議論を通じてADL, QOLの評価を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご家族・医療スタッフとも話し合い、状態の変化に応じたケアを検討しています。特に食形態の変更やおむつの使用等については、検討期間を長く作り対応しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に利用者の言葉や様子を記録し、どのような思いを抱いているのかりサーチし、情報共有を行ってケアに反映させていきます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族の要望を可能な限り汲んだケアを心掛けています。一方でご家族のニーズが入退院の同行など施設外での活動を要請されるケースも多く、すべてに対応するのは難しい状況です。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	現在はコロナ禍によりできていません。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に二回の定期往診を受けています。また、施設看護師による健康チェックが週二回行われ、必要な際はかかりつけ医に繋いでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は日々の申し送りやケアの中で看護師に相談したり、個人記録に記入し情報の共有を行いつつ受診や看護に繋がっていきます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、看護職員は退院時に医師とご家族のムンテラに同席させて頂いて、正確な情報を把握するように努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化やターミナルの確認を行っています。また、状態の変化に合わせてその都度話し合いを行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	突発的な急変や事故に備え、対応マニュアルの作成と周知を行っています。また、急な受診が必要になった際に隣接の小規模の施設車に協力を要請するなど、施設間での協力体制も整えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害対策のため物資備蓄を行うとともに、市の危機管理室へ洪水避難計画書を提出して指導を受けるなど、災害への備えを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人の生活歴や性格を考慮し、誇りやプライバシーを損ねないよう心掛け、個々人に合わせた接し方をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	着用する服や飲み物の種類など、ご本人が選べるように声掛けを行いながら接しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人の意向を優先し、どのように過ごしたいのか、どの程度干渉されたいのかを見極めて支援させて頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	半数以上の利用者をご自分で衣類を選んでいます。定期の理美容の際も、本人の希望に沿うよう行っています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備や片づけを一緒にして頂いています。また、季節に即した食事を提供し、楽しんで頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ご本人の状態に合わせたご飯の量を盛りつけたり、適切な飲水量が確保できるよう声掛け支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアの補助が必要な方はケアを行う他、歯科往診にて指導を受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ご本人に合わせたトイレ誘導、排泄介助を行い、支援しております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	最終排泄の記録をとり、排便コントロールを行い、朝は牛乳を飲んでもらうなど支援を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一番風呂がいい方、決まった曜日がいい方などご本人の望まれるタイミングに合わせております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人が自由に居室やフロアなどで過ごしています。移動介助が必要な方はお声掛けにて同意を得て休息をして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師が記載した往診記録の確認、または個人記録に添付してある薬剤情報を確認しながら服薬の支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者の個別のADL、ニーズを踏まえ、読書やテレビが好きな方、家事を生き生きと参加して下さる方、自室で過ごしたい方など個別に対応し、利用者自身が望む生活を支援しております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在はコロナの影響で外出は控えて頂いていますが、天気の良い日などは駐車場まで出て外気に当たるなどして頂いております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	安全のため現金については可能な限り施設内では使用せず、物品購入についても立て替えにて口座請求を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙や電話にてご自由に連絡をとって頂いております。また、手紙を書くためのハガキを購入し、利用者にお渡ししています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔をベースに安心した生活の提供を心掛けています。季節に応じてフロアの飾りつけを変更し、その季節に合った雰囲気を作成しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入所者様が自由にフロアや居室を歩き来しています。一人を好まれる利用者には、おやつを自室で提供するなど、その人に合わせた対応を行っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家で使っていた家具を居室においてなるべく自宅に近い感覚で過ごして頂けるよう配慮をしています。ご家族の写真や壁に貼るなど、心情にも配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご本人の希望やそれぞれの能力に応じて掃除や食事の後片付けをして頂いています。個別性を重視し、その方の力量に合わせた支援を行っています。		

2020年度

事業所名 花物語なかはら新館

作成日： 令和3年 8月 20日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		家族アンケートより、人員が不足しているのかスタッフがバタバタしているとの指摘がありました。	人員拡充と業務の見直しにより、忙しい印象を与えてしまわないよう、介護者の印象にも気を配る	障害雇用や送迎の間で時間の空いたドライバーの方などに清掃や物品搬入などの業務をしてもらい、介護スタッフの雑務を軽減、介護に専念できるようにする	3ヶ月
2		運営推進会議に地域の参加者を呼べていない事、地域との繋がりを形成できていない事	運営推進会議や面会、地域行事などの再開を目指し、地域との繋がりを深める	職員・利用者のコロナワクチン接種を進め、外部の方を受け入れる体制を整える	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月